

# Windows

## vmware workstation 16.2.4 で、仮想ホスト(Windows10)が Unsupported Processor で起動しない

vmware workstation上の仮想ホストで、Windows10 または、Windows11に、WindowsUpdate 21H2 や 22H2をインストールすると、  
(仮想ホストの) Windows OS再起動後に、ブルースクリーン (BSOD) が表示され、エラーメッセージ：Unsupported Processor が表示される。

自動的にOSは再起動が行われ、またまたブルースクリーン。3回目の起動で、OSの自動修復が行われ、起動完了する。  
起動後のWindowsは、WindowsUpdate実施前状態にロールバックされ、実質、WindowsUpdateが行えない状態となる。

### 【vmware社からの公式発表】

Windows 10 or Windows 11 may BSOD in a VM on VMware Workstation while using Host VBS Mode  
<https://kb.vmware.com/s/article/90134>

This issue is resolved in Workstation 17.0 and later versions.  
vmware workstation 17では解決済み。

つまりは、vmware workstation17に VerUpしろってことみたい  
これって、workstation16系では修正するつもりは無いように思える

### ○ 2022/12/22追記

vmware workstationにて脆弱性 (CVE-2022-31705)が発見される。

<https://www.vmware.com/jp/security/advisories/VMSA-2022-0033.html>

この脆弱性を修正したバージョン 16.2.5 がリリース。併せて、この記事(Unsupported Processorで起動しない)の不具合も解消されている。

再度、<https://kb.vmware.com/s/article/90134> にアクセスすると、  
「This issue is resolved in Workstation 16.2.5, 17.0 and later versions.」と記事が修正されていた。

### 【対処方法】

vmware workstation のバージョンを16.2.5へアップデートする

### 【暫定対応】

ホストOS側の設定 (仮想ホスト側ではありません)

「デバイスセキュリティ」 「コア分離 (コア分離の詳細)」

「メモリの整合性」を「オン」から「オフ」へ変更

**セキュリティレベルが低下するらしいので注意の事**

### 【対応経緯】

以下の方法は、私が行った方法で暫定ではあるが解消している。  
(ググれば、世界中の方々が同問題に直面し、対処方法を記載してくれている)

- (1) 仮想ホスト(Windows10Pro)に21H2へUpdate。仮想ホストのOS再起動後に、この問題に直面。  
結局、自動OS修復が実行され、WindowsUpdate 21H2が当たっていない状態。
- (2) CPU数をシングル(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数1)にすれば良いらしいとの情報で、CPUの割当を変更した  
CPU処理不足で、OS起動もかなり「もったり」状態
- (3) WindowsUpdate 21H2を適用してOS再起動。  
(CPU 1 なので)、ちゃんと立ち上がってきた。

# Windows

(4) Windows10を終了させ、CPUプロセッサ数を元の状態(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数2)へ変更し、OS起動。

見事にブルースクリーン。速攻で仮想ホストを終了。(OSの自動修復がかからないように)  
再度、(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数1)にして、OS起動

(5) WindowsUpdate 22H2を適用してOS再起動。

(6) Windows10を終了させ、CPUプロセッサ数を元の状態(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数2)へ変更し、OS起動。

またまた、見事にブルースクリーン。速攻で仮想ホストを終了。(OSの自動修復がかからないように)  
再度、(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数1)にして、OS起動

(7) さらに情報収集して、

「Windowsセキュリティ」のコア分離->メモリ整合性を"オフ"にすると良いらしい。との情報

(7-1) [スタートボタン]-> 上部の検索できるところで、「windows セキュリティ」と入力。(windows とセキュリティの間は半角スペース)

もしくは、

マウスポインターを[スタートボタン]上に合わせ、右クリック。「設定」をクリック。

左メニュー「プライバシーとセキュリティ」 右上の「Windows セキュリティ」 「Windows セキュリティを開く」

(7-2) 「デバイスセキュリティ」 「コア分離 (コア分離の詳細)」

「メモリーの整合性」を「オン」から「オフ」に変更。

OS再起動が促されるので、OS再起動を実施。

(8) vmware workstation16を立ち上げ、仮想ホスト

Windows10のCPU割当を(プロセッサ数1:プロセッサ毎のコア数2)へ変更

(9) 仮想ホスト(Windows10)が立ち上がる。

## 【最後に】

上記の方法は、暫定対応です。

ご丁寧に、コア分離->メモリ整合性の部分の注意メッセージで、

「メモリー整合性はオフです。お使いのデバイスは脆弱な状態にある可能性があります」と表示されています。



決して気持ちの良い状態ではないのですが、前述の通り、workstation16系の修正版が出れば良いけど、望み薄な状態。

vmware workstation17を購入するか、それとも、Oracle VirtualBoxを使ってみるか。

正直なところ、(このような状態で) キャッシュアウトは苦しい。

添付ファイル::

一意的なソリューション ID: #1028

製作者: n/a

最終更新: 2026-05-05 06:44